

Designing for the 21st Century III, An International Conference on Universal Design

UDブラジル会議・基調講演

2004・12・10

本日は、Designing for the 21st Century III, An International Conference on Universal Designの開催、誠にありがとうございます。会議を主催されます、Adaptive EnvironmentsのValerie Fletcherさんや、共同議長のJim Sandhuさん始め、このような機会を与えて頂きました皆様に、御礼を申し上げます。

さて、私共日本という国は、永い歴史の中で、「Japanese Universal Design」と申し上げてもいいくらいの多くのUD思想に富んだ生活財を育てまいりました。

今日お持ちしました一つの例は「扇子」であります。「携帯用簡易扇風機」とでも申しましょうか、折りたたんで何処でも広げられ、人力で風を起こす道具です。そのルーツは中国の団扇(うちわ)ですが、1200年程前にわが国で折りたたみ式の現在の姿が生まれました。

日用品としての機能的な進化だけでなく、芸術的にも、また舞踏の小道具としても生活に根ざし、変化と広がりをもって発展して来ました。

右手でも左手でも使うことができますし、目の悪い人でも、聴とりにくい人でも、同じように極めて便利に扱うことができます。軽量コンパクトですから可搬性に優れ、高温多湿な日本の夏にはとても重宝する道具として定着しております。

また、「風呂敷」。一枚の四角い布ですが大きな荷物はいっばいに広げて使い、小さな荷物の中にはコンパクトに包むことができ、自在にものを持ち運ぶための「UDバッグ」と言えます。使わない時は折りたたむことで、コンパクトになります。更にショールになったり、時には傘の代わりもしてくれるのです。

その他、日本の家屋も、ユニヴァーサルデザインと言っていいでしょう。取り外しの可能な、障子や襖で空間を仕切り個室に、外せば大広間として使うことが可能です。限られた空間を自在に変化させ、設えることができます。

これらはユニヴァーサルデザインという言葉が無い時代から、生活に定着し続けている、日本のUD商品の代表例と言えましょう。私たちは子供の頃からこうしたUD思想に富んだ環境の中で、ごく自然に暮らしてきました。これらの要素をもっと現代の生活やものづくりに活かしていく発想が、必要だと感じております。

今日の日本は、世界で最も先端をいく高齢社会を形成しています。今年、高齢者の人口比が19.5%を超えました。

それは生活のあらゆる場所で、機器やシステムのUD化が求められる環境下にあります。

そんな中、私たちは2002年横浜で国際ユニバーサルデザイン会議を開催致しました。本日、その時お会いした方も多くお見受けし、大変嬉しく思います。

2002年の会議では、多くのUD有識者の方から、日本の取組みやもの作りに対し、驚きを含め大変高い評価を頂きましたが、我々は更に「一人一人の人間性を尊重したものづくりを推進すること」や「使い手と作り手の対話が重要である」と大会宣言に盛り込みました。ユニヴァーサルデザインとはその為の活動自体であるとの認識と決意です。

これを理念の基本に置き、企業のみならず社会のあらゆる機関が、暮らし易い社会づくりに邁進しなければ成らないという使命感を持ち、またこれが日本の産業界の大きな目標でもあると、深く認識するに至った次第です。

そこで2002年の理念と成果を踏まえ、大会宣言を実行する組織として、国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）の設立に向けて努力をして参りました。この協議会には日本を代表する企業135社を始め、団体・個人など、多くの方々のご参加を頂いております。

インターナショナルと組織名に付けて居りますが、これは我々の思いを日本から世界に発信したいとの意味で敢えて付けている次第です。将来的には、世界的なネットワークに広がる事を目指しております。

昨日、ご披露申し上げました寛仁親王殿下におかれましては、とりわけ障害者福祉に関する高い関心と豊富な経験をお持ちで、このI A U D活動に対しても深いご理解と力強いご支援や有意義なアドバイスを頂いておりまして、大変心強い限りです。その意気込みをメッセージからお感じ頂けたことと思います。

I A U Dは現在ご覧の、7つの委員会で活動を推進しております。

テーマ研究委員会では、定期的な講演会やディスカッションの場を提供し、I A U Dらしい理念のとり纏めや、標準化の推進に取り組んでおります。

事業開発委員会は、住空間・移動空間・労働環境・余暇の4つの事業をプロジェクトとして推進しておりまして、具体的な提案も見えて来ております。

I A U Dの活動を会員内や会員外にも知らせる広報委員会。

イベントを企画し推進するイベント委員会。

日本以外の有識者の方とのネットワークを広げる国際委員会。

コミュニケーションバリアを克服するための情報保障委員会。さらにI A U DのUDアワードを検討しているアワード企画委員会が活発な活動を展開中であります。

この活動の基本は「生活者との対話」にあります。身体的条件は違ってもお互いの差を理解し、認め合う。その生活の現場を直視し、課題を正しく掴む事が重要だと認識しております。

日本の国会では、04年6月に「ユニバーサル社会の形成促進に関する決議」を行いました。これまでの障害者福祉やバリアフリーの観点より、更に一步踏み込んだユニヴァーサルデザインの視点で、総合的な社会環境の整備を目指します。

法律の改定に因る交通アクセスの改善や人材育成事業もスタートし、特に、民間非営利団体(NPO)の活動支援が重点施策に盛り込まれており、I A U Dの活動する意味も大きな

ものがあります。

昨年11月のIAUD発会式には中川経済産業大臣のご出席も頂き、日本政府としても積極的に支援するとのお言葉を頂きました。心強さとともに、責任の重大さも感じました。

地方自治体では、多くの「県」がユニヴァーサルデザイン宣言を行い、行政に積極的なUD導入をはかり、くらしや社会の仕組みのUD改善に取り組んでおります。特に高齢化の進展が著しい地方では、生活にUDの必要性をより身近に感じさせ、UDを必須条件と定める背景だと受け止めております。

日本の企業も、ユニヴァーサルデザイン化は事業活動の基本との認識に立ち、多くの商品やサービスを生み出しております。本日はその代表的な例を二つご紹介致しましょう。

トヨタ自動車では、「ラウム」と言う車種を昨年日本国内で発売し、多くのデザイン賞やユニヴァーサルデザイン賞を頂いております。

180項目に渡るUDチェックリストを作り木目の細かな配慮を形に表した点。ドアの開け閉めや、乗り降りのし易さ、機器類の視認性向上に大きな工夫がある点など、高い評価を受けております。この開発につきましては、この後のセッションで詳しくご紹介をさせていただきます。

次の例は、パナソニックの斜めドラムの全自動洗濯乾燥機です。

この洗濯機の最大の特徴は、洗濯物の出し入れが大変容易になったと言う事です。

これまでの日本の洗濯機は、ドラムやパルセーターが縦軸で回転し、洗濯ものは、機器上面から出し入れするタイプが一般的でした。これですと、背の低い方・子供さん、車椅子の方は些か使いにくく、不自由を強いられていました。

欧米型の横軸でドラムが回転するタイプも、背の高い方や高齢者は腰を屈めねばならず、どちらも一長一短がありました。そこでドラムを斜めにする事で一気に洗濯物の出し入れを容易にする事が出来たのです。

安定した品質を維持するための技術的な困難を克服し、それを美しい形に表現する事で、不便さの解消だけでなく、洗濯機の新しい典型と造形美を創れたと自負しております。この商品も、ユニヴァーサルデザインとして高い評価を受けたものです。

時間の関係で、二つの例しか挙げられませんが、他にも、日本ではTOTO始め多くの企業がUDを積極的に導入しております。今会議においてはその1部を皆様にご覧頂ける様に、ホワイエに展示を致しております。

2006年11月には、再び日本で「国際ユニヴァーサルデザイン会議2006」を開催致します。2002年以降の日本の進化をご覧頂き、またこの会議の議論を受け更なる発展を画し、皆様とディスカッションを行い成果と課題を共有したいと考えて居ります。

特に急激な高齢化の進む日本は、この分野でのUDの試金石として多くの課題提起や、実践的な事例の紹介ができ、皆様に多くの情報をお伝えし貢献できる立場ですので、その役割を担って準備を進めたいと思います。是非、多くの方にご参加頂きます様ご案内申し上げます。

開催場所は、京都を予定しておりまして、詳細は後日IAUDのホームページに掲載致しますので、ご覧頂きます様お願い申し上げます。

我々、国際ユニヴァーサルデザイン協議会は、日本国内の活動に留まることなく、地域や民族を超え、一人一人の幸せや発展に貢献したいと願っております。まだまだ、スタートしたばかりですが、お集まりの皆様とも今日を機会に、幅広くネットワークを作って参りたいと念じております。

是非、多くの方々のご指導・ご支援をお願い致します。共に、素晴らしいユニヴァーサルデザイン社会づくりを進めて参りましょう。

本日は、この様な講演の場を与えて頂いた事に感謝申し上げ、また会議が成功裏に閉幕いたしますよう心より念願しております。ご清聴、ありがとうございました。